

2018年度研究奨励賞

<受賞者と対象業績>

受賞者：内山 直子 氏（東京外国語大学世界言語社会教育センター / 特任講師）

研究業績：Uchiyama, Naoko. *Household Vulnerability and Conditional Cash Transfers: Consumption Smoothing Effects of PROGRESA-Oportunidades in Rural Mexico, 2003 – 2007*. Kobe University Social Science Research Series, Singapore: Springer, 2017.

<受賞者の言葉>

この度は、栄誉ある賞を頂きましたことに御礼申し上げますとともに、より一層精進しなければと身の引き締まる思いです。これまでお世話になった多くの皆様、特に大学院時代からご指導いただいた神戸大学の浜口伸明先生・佐藤隆広先生、そして故・西島章次先生に心より感謝申し上げます。

受賞対象となりました業績は、博士論文とその後の学振特別研究員としての一連の研究成果をまとめたものです。PROGRESA-Oportunidades（現在はProspera）は、世界初の条件付き現金給付（CCT）プログラムとしてよく知られるところです。加えて、最近では一般にも議論される「証拠に基づく政策立案（Evidence based policy making）」の基礎となるランダム化対照実験（RCT）を用いた先駆的かつ大規模な貧困政策という点においても他に類を見ず、開発分野にとどまらず現在の経済学全般に影響を与えたと言っても過言ではありません。拙著では、無料公開されている外部評価のための農村パネルデータを用いて、貧困の新しい概念である「家計の脆弱性」の観点から、PROGRESA-Oportunidadesの貧困削減効果をできるだけ厳密かつ数量的に実証することを目的としました。CCTについて賛否両論が飛び交う中、果たしてPROGRESA-Oportunidadesは「どれくらいの」貧困削減効果を持ったのかというシンプル

な問いに対し、各章ごとに異なる3つの切り口を提示し、それぞれ異なる実証分析アプローチで検証しています。私自身のスタートが地域研究なので、何かと対象地域に感情移入したくなるのですが、本研究は恣意性を限りなく排除し、敢えてデータとコンピューターに分析を委ねても自分の観察や直感と整合的な答えが導けるだろうか、という挑戦の過程でもありました。

私が開発経済学を志したきっかけは、メキシコ留学時に貧困・所得格差に強く興味を持ったことでした。これからも原点を忘れることなく、微力ながら地域研究と実証分析を両輪に、ラテンアメリカ諸国の持続可能な発展の可能性を探求していければ嬉しく思います。今後とも皆様のご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。